

# 皇太子殿下・同妃殿下御参拝



毎月十五日発行  
発行所  
宗像大社  
宗像  
福岡県宗像郡玄海町  
電話 0946 1311 代  
定価 一年送料共 1000円

## 特集号

### 皇太子殿下同妃両殿下の 行啓を仰ぎ奉りて 宗像大社 宮司 葦津嘉之

▲皇太子殿下・同妃殿下には葦津宮司の御先導により境内を進まれる。

去る昭和五十七年七月十一日、福岡県庁秘書室を通じて来年(昭和五十八年)五月下旬、皇太子殿下同妃両殿下、御揃いにて当社に御参拝の旨、御内示をいただきました。

宗像大社は皇祖天照大神より、国家鎮護皇天守護の神として神勅を奉じて御鎮座になられ、皇室とは遠き古代より格別に御関係が深い古社であり、往古より広く朝野の尊崇を集め度々勅使が参向し、歴代皇室の御崇敬も極めて厚いお社であります。

しかるに皇太子殿下同妃両殿下御揃いの行啓を仰ぎ奉るのは、当社の歴史之初めてのことであり、御神威の発揚、御由緒に対し無上の光栄を仰ぐものであります。

当社では御内示がほぼ確定した十一月十八日、責任役員会を開催し、御参拝の諸準備に対し協議が行なわれました。

顧みれば昭和四十六年十一月宗像大社復興期成会々長出光佐三氏により、歴史上嘗てない昭和の大造営事業が見事に遂行され、其後

昭和五十年五月二十日には伊勢皇太神宮の特別の御配慮により別宮、宮の御譲与をいただき来年の懸案であった第二宮、第三宮が完成、引き続き昭和五十五年十一月八日には、出光興産株式会社社長出光昭介氏を初め社員各位の御奉賛により、待望久しき神宝館が落成。

高昭和五十六年十月十六日には、靖国神社の御好意により天皇皇后両陛下が行幸啓時に御使用になられた御便殿(御休所)を出光興産株式会社社長出光昭介氏の奉納により移築し儀式殿として完成。境内の諸施設はこれらの数次に亘る諸事業により立派に整備され、有難いことに両殿下をいっお迎え申し上げても申し分ない神域になったのであります。

明けて昭和五十八年正月職員会議を開催、行啓に関する奉迎事務分掌及び心得について協議。御奉迎準備委員長に宇都宮権宮司、副委員長に葦父、宗像両族定。その任にあたることに決定。以後諸準備は順調に進められました。

三月十五日、東宮待行



啓主務官(八木貞二氏、総理事務官鈴木啓之氏並に異警本部、異秘書室他関係者の方々が来社され、詳細に現地での打合せが行なわれました。

その後宇都宮権宮司、宗像林宜の両名が三月十八日東京、宮内庁掌典職、並に東宮職に参上、行啓の儀註境内の御案内、奉迎者の案内誘導整理等について種々御指示と御指導を承り、最終的な御奉迎計画書が作成されました。

職員一同四月末日迄にすべての準備を終らせることを目標として、祭儀修札、殿内諸調度奉製、祭物用具奉製、御便殿用品の調達、御湯茶接待準備、神苑並に庭園の手入れ、警衛、報道関係者との打合せ、関係方面事務連絡等々諸事万端全力をあげて着々と準備が進められたのであります。

五月に入り境内の桶苔葉もすっきりとした新緑に変わり、雨殿下お迎えの日々は、一歩一歩と近づき、五月の陽光に輝やく神苑は尚一層美しく感じられる好季節をむかえました。

愈々御参拝の前日、すなわち昭和五十八年五月十四日、東京より両殿下御揃いで空路福岡に御到着、同日夕刻十八時三十分、御宿舎である福岡市内のホテルニューオータニ博多に宮司が参上。

東宮待行(行啓主務官)八木卓二氏の御案内により東宮大夫安嶋謙吉を通じて皇太子御参拝の神饌料、玉串料を拝受、慎しんで御礼を言上して帰社。

同夜は宮司以下全神職が

齋泊、明日の御参拝に際し全員齋戒沐浴し心から御来社をお待ち申し上げました。

宗像大社の歴史に未永く銘記すべき、昭和五十八年五月十五日は、まさに桶苔葉薫る快晴の行啓日和でした。

同日午前七時三十分、本殿に於て宮司以下関係神職が整列御下賜並に行啓奉告祭を奉仕し、皇室の無窮と行啓中の御安全とを御祈り申上げたのであります。

やがて定刻午前十一時二十九分、当社の責任役員、特別奉迎者、職員等が整列御奉迎申し上げる中、皇太子殿下同妃両殿下の御召車は、勅使館横馬場道に御到着。宇都宮権宮司の御先導により参進遊ばされ、奉迎者の日の丸の小旗が打ち振られる中、万才の声と拍手が渦巻く。感激のあまり溢れ出そうな涙をじっと胸中に秘め神門前にて両殿下を静かにお待ち申し上げました。

「宗像大社宮司葦津嘉之で御座います。本日は遠路ようこそ御出でくださいました。」と御挨拶を言上。ここで宇都宮権宮司から引継ぎ本殿へ御案内。

安嶋東宮大夫、松村東宮女官長、八木東宮待行、佐々木東宮女官等を従えさせられ、拝殿中央御拝座に御立ちになり、御玉串を捧げ恭しく神前に向い御拝礼遊ばされました。

茲に皇太子殿下同妃両殿下の行啓を拝し、竹の園生の益々いやさかを御祈念申し上げますと共に、御協力いただきました皆様に対し厚く感謝を申し上げます。次第であります。

# 皇族御参拝の御例

久邇宮邦彦王殿下	大正十一年五月十四日	辺津宮(玄海町田島)
久邇宮親子妃殿下	同	同
久邇宮良子女王殿下	同	同
久邇宮信子女王殿下	同	同
秩父宮雅仁親王殿下	大正十四年二月十九日	同
伏見宮博義王殿下	昭和四年五月二十七日	同
閑院宮春仁王殿下	昭和四年十月二十一日	同
朝香宮鳩彦王殿下	昭和六年十一月十日	同
東久邇宮稔彦王殿下	昭和十二年六月六日	同
清宮貴子内親王殿下	昭和三十一年四月七日	同
東久邇宮聡子妃殿下	昭和三十九年五月二十日	同
三笠宮崇仁親王殿下	昭和四十四年十月十日	同
三笠宮崇仁親王殿下	昭和四十四年十月十日	同
三笠宮崇仁親王殿下	昭和四十四年十月十一日	同
三笠宮百合子妃殿下	昭和五十年十月二十五日	同



▲昭和58年5月15日午前10時29分、絶好の五月晴れの中、皇太子殿下・同妃殿下のお召車が御着遊ばされた。お出迎え・御先導宇都宮権宮司。



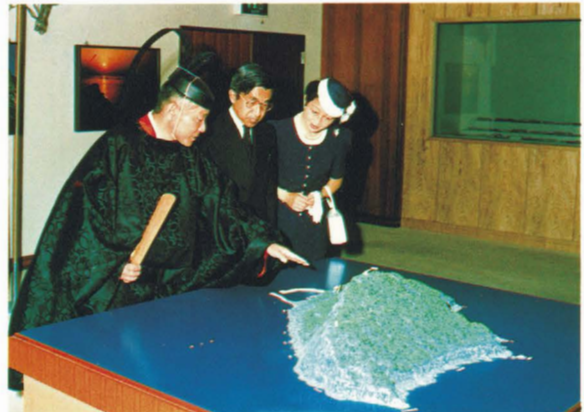
▲両殿下を神門前にて、お迎えされ御参拝の御挨拶を言上げられる葦津宮司。



◀ご熱心に、沖ノ島の神宝を御覧になられる両殿下。



◀奉迎者に、にこやかにほほ笑まれ、お手を上げてお応えになられる両殿下。



◀両殿下に沖ノ島の模型を前に御説明。